

わーく&らいふ

令和4年11月29日 進路指導部 発行

■ CONTENTS ■

卒業後の進路を導く就業体験(現場実習・施設体験)

■保護者の不安の第1位は進路

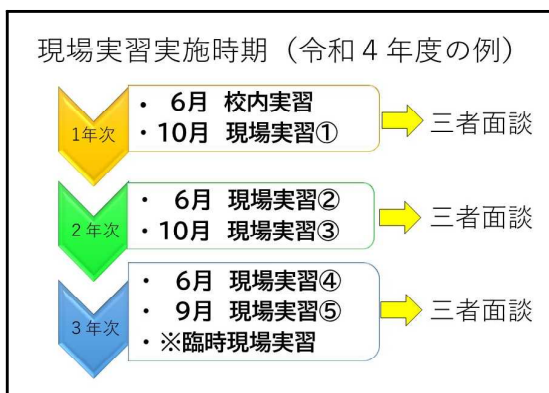
熊本市手をつなぐ育成会が、特別支援学校保護者向けに実施したアンケートによりますと、「困ったり悩んだりしていること」の第1位は「学校卒業後の進路(62%)」でした。また、大部分の保護者が「子供の将来への不安がある(9割)」と答えていることも分かります。

しかし、ご安心ください。特別支援学校高等部では、卒業後の進路に導く重要な学習として、現場実習(一般学級)や施設見学・施設体験(重複障がい学級)を段階的に実施し、少しずつ「進路決定」というゴールを目指します。

本年度も、コロナ禍の影響が若干あったものの、予定していたすべての就業体験を11月で終わることが出来ました。(3年生の進路決定実習は引き続き実施します。)

■実習と面談の繰り返しで、ぴったりの進路に迫ります。

左図は、高等部一般学級の「現場実習」の実施時期を表したものです。



生徒たちは、1年次の秋から卒業まで5回の「現場実習」を体験します。

実習後、実習の成果や課題を基にして話し合う「三者面談」では、実習先からの外部評価で明らかになったお子様の適性や働く力の段階から、「生徒にぴったりの進路」について本人・ご家族・学校で共通理解を図っていきます。

ときに実習先からの外部評価は厳しい場合もありますが、このように、実習と、三者面談の繰り返しによって、卒業までにお子様にとってぴったりの進路先を探していくのが特別支援学校の進

路支援です。

また、三者面談の機会には、必要な手続きについても適宜お知らせして参りますのでどうぞご安心ください。

■10月実施「高等部一般学級1年生現場実習」

1年生は10月に初めての「現場実習」(1週間)を経験しました。この段階の実習のねらいは「働く生活に触れる(馴染む)こと」と「自信をつけること」にあります。ここで重要なのが実習先選びです。「やり遂げた感」をじっくり味わってもらうために、ちょうど良い実習先選びがとても重要だからです。



この「やりとげた感」の経験は「自己肯定感」を育み、進路を自己選択するための素地となります。

実習を経て1年生たちが考えた進級に向け頑張ることは次のとおりです

- ・挨拶を大きな声でする。
- ・自分が出来ることは自分でする。
- ・自分に甘えずに最後までやる。
- ・いろいろな施設の利用をする。
- ・体力作りにチャレンジする。
- ・準備を早くできるよう頑張る。
- ・集中して頑張る。
- ・表情を明るくする。
- ・名前を呼ばれたら「はい」と返事する。
- ・出来ることは頑張る。
- ・友達の話聞いてサポートする。
- ・やりたいことを自分で決めて行動する。
- ・自分から先生や友だちに話しかける。
- ・名前を呼ばれたらダッシュで来る。

1年生の実習先

たまきな荘就労支援センター風工房(2人)就労支援センターワンピース(1人)、株式会社アントレ(1人)、第二天水学園(1人)、WAKABA(1人)、にこにこわがんせ(2人)、通所施設なかま(2人)、ひまわりの里(1人)、がまだすサポート(1人)、生活支援センターきらきら(1人)、あいりす荒尾(1人)、株式会社スマイルファクトリー(1人)

編集後記

卒業後の進路先の80%は「福祉サービス事業所」です。実習説明会などの折に触れて保護者の皆様にお勧めしているのが、まず親が事業所(施設)のを知ることです。有明園域(荒尾市・玉名市・南関町・和水町・長洲町・玉東町)では、福祉サービス事業所のガイドブックが作られおり、行政の(市町の)ホームページから閲覧することが出来るようになっています。自宅のパソコンから、スマホからいつでも見ることが出来ますので、ぜひ覗いてみることをおすすめします。お子様が小学生のうちからでも早すぎることはありません。その上で知りたいことがある場合は遠慮なく進路指導部へお尋ねください。(谷口)